

S-Net/GBIF データ提供に関する事務手続きについて

	国立科学博物館	協力機関	提出物
1	データ変換のための予算(NBRPの外部資金による)が確保できましたら、S-Net/GBIF関係者宛のメーリングリストを通じ、今年度のデータ提供についてのアンケートフォームをご連絡します。【4月】	データ提供が可能な機関の窓口担当の方は、フォームから提供可能件数と関連する情報をご回答ください。【回答期限:5月16日(金)】 ※データ提供件数は、有償提供の場合は最大で22,500件です(無償提供の場合は上限なし)。当年度の予算額に応じて調整するため、ご希望の件数に添えない場合がございますことを、ご了承ください。	【Webフォーム】データご提供可能件数アンケート
2	アンケートに回答いただいた提供可能件数を調整後、各機関へ今年度のご提供依頼件数を連絡します。 ※見積依頼書等の書類が必要と回答された機関へは追って書類を郵送します。	データ提供の同意書(新規にご参加いただく機関のみ)と見積書をご郵送ください。 【提出期限:8月末】 ※見積書は【様式2】の課税、非課税の例に従ってご記入ください。※インボイス対応書式を使用	【様式1】データ提供同意書(新規機関のみ) 【様式2】見積書(必須)
3	見積書を受領後、契約書が必要な機関へは見積りに基づく科博と機関間の契約書の文案をお送りします。文案が確定しましたら、契約書を作成して郵送します。	契約書の文案をご確認いただき、変更の有無をご連絡ください。また、郵送された契約書の原本に押印して一部をご返送ください。 ※契約書はご機関で必要があれば締結できます。	【科博より送付】契約書(必要な機関のみ)
4	 送付されたご提供データについて形式や掲載済みデータとの重複有無を調べ(受付チェック)、確認や修正が必要な場合はご連絡します。	S-Netの登録データ形式に変換したデータをデータチェックリストとともにメール添付かファイル転送システム等でご送付ください。 【送付期限:第1次→10月末,第2次→1月末】 ※新しい分類群のデータセット(コレクション)をご提供いただく場合は、メタデータ登録票とデータ利用権回答書を併せてご送付ください (詳細は【参考資料A-1】、【参考資料A-2】参照) ※新規参加機関でGRSciColl(旧GRBio)に登録が必要な場合は【参考資料A-3】を参照しご登録ください。 ※受付チェックで問題があった場合は、登録データを修正し、再提出をお願いします。	【ファイル】提供データ(詳細は次頁を参照) 【様式5】データチェックリスト 【様式7】メタデータ登録票 【様式8】データ利用権回答書
5	ご提供データに問題がなければ「データ受領のご連絡」のメールをお送りし確定した件数をお知らせします。	受領連絡日付の完了通知書、受領連絡日以降の日付の請求書を確定した件数に従い作成し、請求書類チェックリストでチェックの上、原本をご郵送ください。※インボイス対応書式を使用 また、確定件数が見積書の件数と異なる場合は見積書も再発行ください。	【様式3】完了通知書 【様式4】請求書 【チェックリスト】請求書類チェックリスト
6	到着した書類に不備がないことを確認後、翌月末までにご指定の口座に請求金額を振り込みます。	※納入通知書による振り込みは会計処理が難しくなりましたので、ご遠慮くださいますようお願いいたします。	

※S-Netサイトの「参加機関・参加検討中の機関の方へ」のページにデータ提供に関する手順やツール類をまとめています。データ変換ツールおよびマニュアルはこのページの最新版をご利用ください。

https://science-net.kahaku.go.jp/app/page/tool_download.html



【書類送付先】

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館 標本資料センター
神保 宇嗣

※その他ご不明な点は随時お問い合わせください。

国立科学博物館 S-Net/GBIF 担当: 神保・柿添・太田・江守
E-MAIL: s-net_info(at)kahaku.go.jp * (at) は@に変更
TEL: 029-853-8277 / 8278 FAX: 029-853-8998

自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータの提供方法について

1. データ提供の概要

独立行政法人国立科学博物館（以下「当館」という。）では、「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」の事業を実施するため、文部科学省から令和7年度研究開発施設共用等促進費補助金（ナショナルバイオリソースプロジェクト）の交付を受けています。この事業の一環として、当館は、地球規模生物多様性情報機構（GBIF）における日本の活動拠点の一機関として、博物館等の各参加機関が有する標本資料の所在情報などの電子データを国際標準フォーマットに変換し、GBIFの枠組みにおいて集成・公開しています。また、収集した情報を活用し、国内のデータベース（サイエンスミュージアムネット：S-Net）の構築や拡充にも貢献しています。

本件は、参加機関が有する標本資料に関わるデータ（以下、データ）の提供を目的とするものです。その業務仕様を以下のように定めます。

2. 業務の履行期限

令和8年3月末日までを最終期限とします。データ提出の期限は別に定めます。

3. 仕様

(1) 仕様

- Excelブック（.xlsx）またはカンマ区切りテキストファイル（.csv）の入力ファイルを用意し、当館より提供するデータ変換ツールを利用して作成したS-Net用のフォーマット（S-Net形式）を用いて、登録データを整備すること。
- 標本に関するデータを、S-Netで定めた項目を利用して入力すること。項目とその詳細についてはデータ変換ツールのマニュアルを参照のこと。
- データに用いる数字については、原則として半角英数字で入力すること。
- データの1行目には、フィールド名（データ項目）を入力すること。
- 各データには、提供元となる機関名を定められた形で記入した上で、標本番号（重複しないこと）、データ種別（保存標本・化石標本）、種の学名（未同定でもかまわない）、界名（学名と日本語名）を必ず入力すること。
- 館内のデータベースなど、ウェブページへのリンクとして定められた項目も、可能な範囲で情報を入力すること。
- 可能な範囲で、住所の入力名は詳細に記入し、緯度経度（世界測地系；十進数表記）ないし3次地域メッシュコードも入力すること（ただし以下の場合を除く）。
- 希少な種を保存する観点から、環境省および各都道府県のレッドリスト掲載種に該当する種の場合には、基本的に市区町村より詳細な地名情報および位置情報を削除してから提出すること。
- 個人情報保護の観点から、S-Netにおいては採集者情報を公開していないため、提出データからは削除すること。
- 日付は、西暦4桁、月2桁、日2桁の順に8桁の半角数字で入力すること（例：19851025）。年・月・日が不明の場合は、半角アスタリスクを使って以下のように入力する（日が不明な場合の例：198510**、月が不明な場合の例：1985****、すべて不明な場合：*****）。期間による入力も可能とする。

(2) 受領時前提条件

- 参加機関より提供されるデータの件数および提供時期は、年度初めの提供計画に従って当館より通知される。
- 特別に合意がある場合を除き、データ変換ツールを通した後のExcelブック（.xlsx）（「○○_登録データ.xlsx」）を提出用データとする。
- 本データが仕様を満たさない場合には、保証期間内（納品から1年間）において、すみやかに修正すること。

4. 成果品

- 自然史標本情報データファイル（Excelブック）一式
- データ提供同意書（新規参加機関のみ）
- メタデータ登録票およびデータ利用権回答書（新規データセットのみ）

をメール添付や郵送などにより送付。

5. その他

- 提供したデータベースの使用権に関しては当館および参加機関が有するものとし、提供したデータの著作権については参加機関が有します。
- データの利用ライセンスは、参加機関からの希望により定めるものとします。
- その他詳細については、当館担当職員と協議の上で決定します。

以上